

## ちょっと気になるお話 お詫びと訂正

研修から帰るなり一気に「+」No. 22を仕上げ、ホッと一息の私を御意見番が襲った。手には2日前に渡した下刷りが。

「この“とんとん葺き”の行やけど、あれはサワラやなかったかな？」

「どっ、どうして？」「いや、パンプにはサワラとあったから。」「そうでしたか？でも、板が積まれてるのを見ましたけど、間違いなく杉でしたよ。第一サワラの柱目板がそんな大量に有る訳無いじゃないですか。」「そ、そうかあ、ここに書いて在るんやけど・・・、まあプロがそう言うんなら・・・」

『どうも納得がいかない』といった風で御意見番は帰っていった。

『間違い無いよ。ちゃんと確認したもんな。「和」も、もう出来たのから配っちゃってるし。』だが、段々不安になってきた私は、パソコンに取り込んでいる“とんとん葺き”の画像を拡大して思わず息をのんだ。そこには、やや黄色がかった艶のあるサワラの柱目板が写っていたのだ。

「アイタッ～、やってもうた～。」

考えてみれば当たり前の事。桶の材料になるほど水に強いから“とんとん葺き”にはサワラなんです。木曾檜同様、“木曾五木”に数えられるサワラも有名、有る所には有るんです。それをプロが見誤るなんて！

「どしたん？」意気消沈の私を妻が見留めて聞いてきました。

「実は、・・・と言う訳じゃ、情けない、『弘法にも葺きの誤り』と言うか・・・」

「何いよるん。あんたの事や、夜に泊まる嬉野温泉の事でも考えちよったんやろう。」

「ぐぐぐっ、面目ない。」

と言う事で、間違い無くサワラでございました。皆様ご迷惑をお掛けしました。

お詫びして訂正させていただきます。

今後はこのような事の無き様、尚一層の研鑽を積む所存にございます。

今回は、どうぞご容赦下さい。(；)



## 里山探訪 やまの恵みたち

神原の溪谷には名も無い滝が点在しています。

画像の滝は、通称“ヒイバチの滝”。道路が整備されるまでは地元でも一部の人にしか知られていませんでした。落差六、七十メートル、三段となって落ちていますが、対岸から見ればV字谷からの一筋の流れに見え、実に圧巻です。

落ち葉を踏みながらの溪谷散策も味わい深いものがあります。

今回の「やまの恵みたち」は、“眼福”という視点から。

“満腹”にはなりません。



# 和

なごみ

## 初笑い

明けましておめでとうございます。

【笑う】 表情から、脳にそう思い込ませる

という説があります。

微笑、艶笑、失笑、苦笑、爆笑、哄笑、・・・

初詣は、とにかく笑って暮らせますように

とお願いしました。

【笑】 という字は、子犬が竹箆をかぶった様子からきている

とも聞きます。

今年も成年、楽しい日々でありますよう

みなさまのご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。



足跡

## 句の版画

雪の日の朝

岡城へ一番乗りしようと  
早起きして出かけたのですが

登り道にはもう足跡が



せんでい  
**剪定ばさみ** (庭師のワンポイントアドバイス)

「常緑樹の落葉」

落葉樹は毎年冬の凍結を防ぐために葉を落とします。

★No. 22 で紹介した中で数種の樹木（カシフ、クヌギ、等）は葉を付けたまま冬を過ごします。常緑樹も毎年葉は落としますが、樹種により、又時期により落葉が異なります。

翌年の秋に古い葉を落とすもの（クチナシ）  
 3～4年間付けているもの（マテバシイ、カシ）  
 5～6年間付けているもの（タラヨウ）  
 クスノキはまれに新葉が開く前に葉を総て落としてしまうことがあります。



一建落着



N邸 (竹田古町)

お施主さんのご要望で『水屋』をしつらえました。



S邸 (緒方)



庭の隣には菜園、  
 という昔から続けられた暮らしを  
 これからも。  
 90歳のおじいちゃんも  
 落着ける住まいです。



板張りの下には“炭入れ”も  
 仕込みました。

『わ』を読んでの  
 ご感想を  
 お聞かせ下さい。

発行人 川野和男  
 編集 川野組内  
 家造り匠の会  
 〒 竹田62-2416  
 E-mail tkk22@theia.ocn.ne.jp

体 **たいむ** 「いっぶく」時間の一枚



これは、朝地駅前の屋根からの景色です。  
 手前の石橋が写り込む様に朝地駅の方へレンズを向けた時、  
 この日も赤い列車が通過していきました。

知っ得？納得！ こんな所に こんな物

「あの、次回の知っ得？納得！の写真なんやけど・・・」  
 とレポーターから渡された写真が右のものです。  
 歩道の柵に設置してある追突注意の看板が見事に折れ曲がっています。  
 それも一つではなく続けて何個も。  
 場所は市内拝田原、扇森神社入り口付近の  
 国道57号線沿い。



「これって簡単に曲がる様なもんな？」  
 「いいやあ、けっこう厚いで、  
 道路標識と同じやもん」  
 「何でこんな事になったん？」  
 「さあ、ようは解らんけど、歩道の柱からはみ  
 出して設置されている事自体危ねえよなあ」  
 「ひょっとして『追突注意』って車にじゃなく、  
 この柵にとって事かな？」  
 「!・・・?・・・」